

## 社会人女性における知の格差とその是正

三 輪 建 二（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科）

格差の意味をマイクロレベルの知の格差の問題と考え、「女性の実践知・生活知と大学等での専門知との間の格差の問題」について継続的に研究している。このテーマは、

1. お茶大が女子大学であり、中高年（社会人）女性の教育・指導において、女性の知のあり方によりセンシティブである必要があること
2. 外部評価において、社会人の大胆な発想や経験を取り入れた研究を行うべきという指摘（柏木委員）があったこと

の2点において、意味があると考ええる。

### 研究内容

2007年度は、女性が大学・大学院に入学するときの大学の知とのギャップという観点について、GCOEの経費と本学共同教育・共同研究用経費とを合わせ、「お茶の水女子大学社会人院生のエンパワーメントに資する指導法・カリキュラム開発の研究」を実施し、報告書『社会人女性大学院生はどのような学びを求めているか』（平成20年3月）にまとめた。

今年度は、E. Hayes/D. D. Flannery, *Women as Learners: The Significance of Gender in Adult Learning.* の翻訳を実施した。アメリカ合衆国の成人教育において定評ある本書について、内容を検討すると同時に、院生や他大学の先生と一年間かけて訳出した。訳文を今年度のGCOEの研究費の一部を充てて、刊行する予定である。

本書は、「フォーマルな、そしてインフォーマルな学習活動に参加している女性の数は急激に増加したにもかかわらず、典型的な状況は、彼女たちのニーズを満たすものは実際にはほとんどないか、ニーズを満たそうとする努力が時代遅れの情報や視点に基づいているかである」とし、特に大学における男性中心・白人中心主義の知と学生指導が、マイノリティ女性を抑圧状況に追い込んでいること、白人女性学習者の場合にも知の偏在があること、システム全体の改善とあわせ、関係性の改善の段階での知の格差克服（例えば、女性の声なき声（voice）を拾い出す試みなど）が急務であることを指摘しており、GCOEの研究に貢献できると考える。